

男鹿真山伝承館：実演 孫嫁の話

家長とナマハゲとの対面はここまで比較的穏やかなものでしたが、ここからはより深刻さが増します。ナマハゲの一人が男性に対し、昨年男性が他の家族の誰かと一緒に大事な客人に酒を注ぐと約束したと主張します。しかし今ここには主人しかおらず、ナマハゲは苛立ちます。他の家族は何か隠し事があるから出てこないのではないかとナマハゲは言います。ナマハゲは、ナマケモノがいらないかと観客のほうを見渡します。

家族を守るため主人は反論し、家の皆が働き者で恥ずかしくない暮らしをしていると主張します。しかしナマハゲは主人の反論に納得せず、主人が無精な親戚をかばうために嘘をついていることを示唆します。なぜナマハゲはこのような結論に至るのでしょうか？